

ふなだた



No.165
28年/1

発行：山形県舟形町議会
平成28年1月22日



無病息災を願う「おさいど」

年頭のあいさつ.....	2 P
11月臨時会・12月定例会概要・質疑応答 ...	3 P
一般質問に5議員.....	5 P
町民の声・人事案件.....	10 P
議会活動・請願・陳情.....	11 P
えがったなあ・編集後記.....	14 P



「おさいど」に協力してくれた福寿野子供会



町議会議長 八 鋏 太

「年頭によせて」

明けましておめでとございます。

町民の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

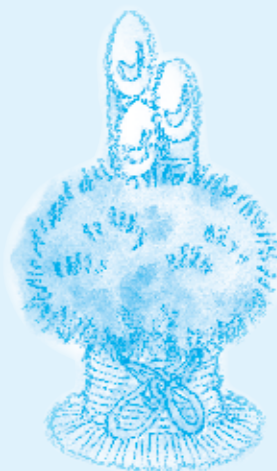
昨年は4月の統一地方選において、新たな議員構成によるスタートの年となりました。皆様のご支援、ご協力により円滑な議会運営ができましたことに感謝を申し上げます。

町を取り巻く情勢を見ますと、国内経済はまだまだ低迷が続いており、とりわけ地方においては景気の回復感が得られず、少子高齢化に伴う過疎化が進行しつつあります。

こうした中、今年は本腰を入れた地域再生に向け、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく舟形町総合戦略が試される年であります。

議会として現状に適切に対応し、安全、安心な住みよい町づくりの実現に向けて、町民の皆様のご意見、ご要望を町政に反映させるべく、持てる機能を十分に発揮しながら議員一同全力で取り組んでまいります。なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様にとりまして、本年が健やかで幸多い年でありますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



議長 八 鋏 太

副議長 加藤 憲彦

議員 叶内 富夫

議員 佐藤 広幸

議員 齋藤 好彦

議員 奥山 謙三

議員 佐藤 勇

議員 石山 和春

議員 小国 浩文

議員 伊藤 欽一

事務局長 高橋 明彦

事務局 石川 忍

第4回臨時会 11月30日
12月定例会 12月8日～10日

臨時会

関東・東北豪雨災害復旧費

総額8735万円を計上

第4回臨時会は11月30日に開催され、9月の豪雨災害復旧補正予算等全議案を原案どおり可決しました。
12月定例会は8日から10日までの日程で開催され、一般・特別会計補正予算、町指定管理者の指定等、全議案を原案どおり全員の賛成で可決しました。
一般質問では5名の議員が、農業振興、教育問題、定住促進、除雪対策など町政全般にわたり質問しました。

主な復旧事業

- ◎農業用施設災害事業 ……5414万円
- ◎アユパーク施設災害復旧事業 1548万円
- ◎若鮎まつり会場復旧事業 ……207万円
- ◎若鮎まつり備品被害額 ……819万円



災害直後の若鮎まつり会場

主な審議された議案

第4回臨時会

- 平成27年度一般会計補正予算
- 町監査委員の選任

12月定例会

- 平成27年度一般会計補正予算
- 平成27年度特別会計補正予算
- 舟形若あゆ温泉等の指定管理者の指定 (株)舟形町振興公社)
- 町体験実習館等の指定管理者の指定 (東北エコリサイクルネットワーク)
- 町選挙管理委員会委員等の選挙

質 疑 応 答

第4回臨時会

平成27年度一般会計補正予算

議員 災害復旧により損傷した消防ポンプ積載車の今後の導入計画は。

総務課長 現在は町の予備ポンプで対応しています。来年度の導入に向けて、該当地区と協議してまいります。

議員 河川公園洪水災害緊急対策事業400万円の内容は。

地域整備課長 アユパーク施設等の土砂、流木等の撤去作業に要した費用です。



町民のボランティアによる撤去作業

12月定例会

平成27年度一般会計補正予算

議員 地域交流センター管理事業費として燃料費の補正が計上されているが、その内容は。

総務課長 富長交流センターの登り口のロードヒーティングの燃料代です。六次産業推進員の配置等により、加工所利用の往来が多くなるため、ロードヒーティングを再利用することにしたためです。

議員 移動販売車購入助成事業補助金全額が、減額になった理由は。

まちづくり課長 当初申し込みがあった舟形出店のコンビニが辞退したため、再度募集をしましたが、最終的には希望者がいなかったため減額しました。

議員 灯油購入費助成金は、何人の方どのような方法で行なっているのか。

税務福祉課長 該当見込みは260世帯です。消費税の増、年金の実質引き下げによる、低所得世帯等へ5000円相当の助成券を交付する内容です。

議員 地域おこし協力隊の方々に定住してもらうための、町としての考えは。

まちづくり課長 地域おこし協力隊は定住を目標としています。町としては、任期中に町の現状を体感してもらい、本人の意向を大事にしながら、定住にむけて支援していく考えです。

簡易水道特別会計補正予算

議員 簡易水道再編推進事業3828万円の減額の内容は。

地域整備課長 工事請負費の減額は、交付決定が当初要望額より少なかったこと、入札により差額が生じたために減額となります。



小国 浩文 議員

防災対策を問う

根本的な解決策を検討する

質問 9月10日の大雨により大きな水害が起き、痛ましい被害がもたらされました。このことを踏まえ、今後、町としてどのような対策を講じていくのか、町長の考えを伺います。

町長 町では、4つの解決方法を考えています。一つ目は、夫婦川の水門のところに国道を横断する排水樋管を整備し、排水ポンプによる排水をすること。二つ目は、土砂の浚渫を行うこと。三つ目は、最上小国川ダムの早期完成を目指すこと。これらを県に要望しました。

四つ目として、自主防災組織の中で、災害を受けない体制づくりを町内会にお願いしたいと考えています。そのために、町でも職員が防災士の資格を取得しています。まずは、河川の浚渫を早急に県より実施してもらつよう要望しています。根本的な解決策については、工事手法や財源などを検討しなければなりません。

ません。舟形第3地区の冠水する場所については、県道、県河川、町河川の管理が複雑に絡んでいることから、県の指導を受けながら検討してまいります。

舟形町の農業振興を問う 新しい特産品を開発

質問 農業振興策として旧富長小に出来た農林水産物加工施設を有効活用し、新たな特産品としてメープルシロップを加わえ、舟形町農業の活性化を図っていく考えがあるのかを伺います。

町長 今後も町の農業生産者より町特産品等となる材料を提供してもらいながら、様々な加工品の



様々な加工品を開発している加工所

開発を行い、農業の活性化に結びつけるように努力していきます。そのために、(株)舟形町振興公社のノウハウを活用しながら加工と販売に取り組んでいきます。

※浚渫とは
河川などの水深を深くするため、水底をさらって土砂などを取り除くこと。



6次産業推進のために採用された協力隊員



寺下地区の冠水の要因となる場所



齋藤 好彦 議員

地域経済の再生策は

官民一体の取り組みが重要



人気のプレミアム商品券

質問 地域が活力を失う原因は、地域経済の衰退であり、地域経済の再生こそが地方創生ではないかと考えます。地域の産業、既存の工商业者、そして地域そのものを大切にしている心が、地域経済を再生する根幹であると思

町長 舟形町内での購買依存率は13・4%となっており、町内消費を喚起する

質問 東京でNPOが主催している「ふるさと回帰支援センター」への相談件数、ホームページでのアクセス件数、電話による問い合わせが年々増加傾向にあります。

町長 昨年、内閣府が行なった東京在住者の今後の移住に関する意向調査では、東京在住者の4割が地方への移住を「検討している。」または、「今後検討したい」と考えている。」という調査結果を受けて、

このような状況の中、最上8市町村が一体となった移住相談窓口の整備が必要であり、移住促進による地方創生の積極的な取り組みが必要であると

果を受け、県と最上8市町村、及び関係団体を構成員とする最上地域移住交流推進協議会では、最上地域における移住・交流推進体制の整備に係る調査研究などの事業を行なっています。



山形のPRコーナー（有楽町支援センター）



みんなで考え、算数への関心を高めよう

教育長 今年度の全国学力・学習調査結果は、小・中学校とも全国平均との比較では、国語、理科が良く、算数・数学が悪い傾向にあります。実態を把握し、具体的なアクションプランを立てて、今、動いているところで

次の4点を重点として取り組んでいきます。
1. 学力向上に向けた授業改善として、大学教授による校内研修や教育講演会、中央

その中で、新庄最上地区は県内ではどの位置にあるのかわかりませんが、決して高い方ではないように思われます。学力向上に向けた取り組みについて教育委員長に質問します。

講師を招いての算数・数学授業研究会を実施していきます。
2. 授業の「振り返り」「めあての提示」「家庭学習の充実」を小中が共通して実施します。
3. 教育課程の見直しによる補充指導
4. 町PTAとの連携によるセーブメディア運動の一層の充実



子どもの力と教師の指導力を高めるための校内授業研究会

※セーブメディア運動とは
テレビ・ゲーム・パソコンなどを見ない日を設け、家庭における学習や家族との会話を充実させる取り組み



奥山 謙三 議員

小・中学校学力向上への取り組みを問う

アクションプランを立てて実施していく



石山 和春 議員

今年度の除雪対策について

地域一斉除排雪事業を検討



安全祈願し出動間近の除雪車

質問 除雪は身体的にも精神的にも大きな負担となっています。特に高齢者世帯では不安を感じています。生活の不安を少なくすることが定住促進に結びつくと考えます。次の点について町長の考えを伺います。

- ①今年度の方針について
- ②町・県道連携について
- ③間口除雪について
- ④新たな取り組みについて

町長 除雪時間の短縮、苦情が軽減されることで快適な生活を提供できる

質問 空き家等の適正管理に関する条例、空き家対策の推進に関する特別措置法も施行されました。所有者に対策を講じるよう指導を行なっていることは承知しておりますが、

町長 除雪の苦情は、国道、県道に限らず町にも来ます。国県市町村合同の除雪関係機関会議を開催し情報の共有を図ると共に、道路管理担当機関との連携を図っていきます。

質問 空き家等の適正管理に関する条例、空き家対策の推進に関する特別措置法も施行されました。所有者に対策を講じるよう指導を行なっていることは承知しておりますが、

町長 倒壊寸前の空き家とは、町の条例では、管理不全な状態の空き家と規定しています。11月



対応が待たれる危険な空き家

での調査では、17戸となっています。町では平成26年度に、舟形町老朽危険空き家除去補助金交付要綱を制定し、解体工事に15万円、今年度は50万円まで増額しています。それでも活用がない状態です。所有者に連絡がつくものは文書等で、つかないものは血縁者をたどりお願いし、パトロールをしながら安全の確保に努めます。



伊藤 欽一 議員

若者が定住できるまちづくりを問う

連携の可能性を模索していききたい



駐在所に隣接された定住促進住宅

質問 平成22年度の国勢調査によると町内企業への就労者は、町外からの就労が多くなってきている状況です。これでは若者が定住でき、人口増加を目指すことができるのか疑問であり、今後、若者への就労支援が必要で

あると思います。また、交通アクセスも格段に改善していることから、東根工業団地や天童の企業等と連携し、当町に居住し通勤する仕組みを作ることも人口増加に必要と考えますが、町長の考えを伺います。

町長 「若者が定住するまちづくり」のための施策としては、生活環境の整備と雇用の確保を掲げています。これまで子育て支援住宅3棟と定住促進住宅3棟を建築、転入者への定住支援策として最大200万円の交付金が受けられる制度を設けました。さらに今後は、民間アパート家賃補助制度を創設し、若者に住んでもらうための居住環境の整備を検討していると

ころです。当町は最上地域の南の玄関口として地理的な好条件を持つっており、通勤圏内の自治体、工業団地等とは、今後、情報収集を行い、お互いにメリットのある連携の可能性について模索していきたいと考えます。

町長 町長は体調不良から3選出馬を断念しましたが、任期満了まで就かれるとのこと。2月9日告示、14日投票の選挙は真冬の厳冬期、町民の皆さんの負担、特に高齢者の方々はたいへんだと思います。町長には、年内選挙の考えは



保育園・小学校まで徒歩1分の子育て支援住宅

なかったのか伺います。

思いますので、ご理解とご協力をお願いします。

声 声 声

皆さんの声を掲載する欄です。議会に対するご意見・ご要望等、どうぞお気軽にお寄せくださるようお願いいたします。

人口減少、少子高齢化、町内の空洞化など、舟形町が抱えている課題は沢山あります。しかし、それは舟形町に限ったことではありません。山形県内の各市町村、いや、国としての課題でもあると思います。そんな今だからこそ、人と人の繋がりが大切で、地域のまとまりを持ってこの課題に取り組んでいくべきだと思います。

私は堀内地区でそば店を営んでいます。日々お客様との出会いがあり、その繋がりを大切にしたいと心がけています。そして微力ながら、お客様へ舟形町の魅力を伝えようと頑張っているところです。

議員の皆さんも研修などいろいろな場所に行かれると思います。その時には舟形町の良さを再確認し、舟形の魅力を発信していただけたらと思います。愛すべき舟形町を、魅力あふれる良い環境のまま次世代へと引き継いでいきたいと思います。

議員の皆さんも町民目線で、これまで以上に頑張ってください。期待しています。



手打ちそば重作 店主
加藤 貴さん
(堀内)

監査委員の選任に同意



渡邊 敬子氏
63歳 (一の関)

任期は
平成27年12月 1日より
平成31年11月30日まで

地方創生で何が問われているのか

山形県町村議会議員研修会

平成27年10月19日に、山形市国際交流プラザで会場に、講師の大杉寛氏から「人口減少時代における自治体のあり方」と題し、講演をいただきました。

地方創生で何が問われているのか。人口減少をチャンスと捉える姿勢・思考を持ち、地域の実像・将来像を「見える化」すること。その具体的な将来像から逆算して、必要な取り組みを行い、「小さな自治」を守りきることを学びました。

また、金田憲和氏からは「日本農業の国際競争力を考える」と題して、TPPが各農産品等に与える影響と、様々な理論・指標より「攻めの農業」の可能性についての講演がありました。

どちらの内容も、今後の大きな課題であり、たいへん有意義な研修でした。

選挙管理委員会委員等を選出

任期満了により新しく選挙管理委員会委員及び補充員を選出しました。任期は平成27年12月23日から平成31年12月22日までです。

選挙管理委員会 委員



小野 満氏
69歳 (真木野)



植松 敦子氏
63歳 (長沢1)



小國 友昭氏
67歳 (富田1)



沼澤 仁氏
67歳 (紫山)

選挙管理委員会 補充員



伊藤 良一氏
63歳 (福寿野)



澤内 修一氏
61歳 (洲崎)



伊藤 義範氏
58歳 (野)



稲毛 陽子氏
39歳 (沖の原)

読みたくなる議会だよりを目指して

全国議会広報研修会

平成27年10月20日～21日に、東京都千代田区にあるシェーンパツハ・サポで開催された町村議会広報研修会に参加し、3名の講師から2日間にわたり研修を受けました。

1日目は、「なぜ文章がわかりにくくなるのか?」「わかりやすく書くテクニック」「伝わる文章の書き方」や、「思わず手にとる読みたくなる議会だよりを目指して」について研修し、2日目は、議会広報コンクルの優秀受賞紙を参考に編集活動や編集の進め方について研修しました。これからも、町民の皆さんの声を聴きながら、身近に思われる議会報になるような紙面づくりをしていきたいと思います。

工事の進捗は順調

総務振興常任委員会

1 日 時 平成27年10月2日 (金)
2 調査内容

- (1) 堀内交流センター解体工事
 - ① 工事の進捗状況は予定工程より順調に進捗していた。
 - ② アスベスト除去工事が残っており、慎重に対応すべきである。
- (2) 沖の原浄水場築造工事
 - ① 操作室築造工事は予定工程より順調に進捗していた。
 - ② 小松水源地からの導水管工事等は、ほ場整備と連携が必要である。
- (3) 農地整備事業(小松・原田地区)
 - ① 豪雨災害により一部欠損箇所もあったが、順調に進捗していた。
 - ② 事業を順調に進めるための財源確保が今後の課題である。
- (4) 三光堰頭首工(豪雨による一部決壊)
 - ① 増水により決壊箇所の確認は不可能であった。
 - ② 県と連携し、来春の農作業に影響が出ないよう対応すべきである。
- (5) 「経壇原水利組合管轄の農道に関する請願」の検討
 - ① 常任委員会に請願者の同席を求め、内容等を確認することにした。
 - ② 請願者の意見等を整理し、再度検討することにした。



読まれる紙面づくりを研修

食品廃棄物による エネルギー開発を視察

総務振興常任委員会

- 1 日時 平成27年11月6日(金)
- 2 目的 バイオガス発電を利用した循環型農業について
- 3 調査先 新潟県村上市「株式会社 開成」
- 4 調査内容

この会社は、平成13年に策定された「村上市地域新エネルギープラン」に基づき事業調査委員会を設置し、平成21年には「瀬波温泉熱利用温室ハウス及びバイオマス発電事業化計画」に着手し、地域資源利活用型温室ハウス2棟による南国果樹栽培を開始した。その後、バイオマスエネルギープラントの建設により、温室ハウスへのバイオガス温熱供給、電力会社への売電を開始した。



エネルギーの原料となる食品廃棄物の投入作業

また、メタン発酵消化液のほ場散布による稲作栽培(30ha)に取り組んでおり、米穀の販売、農産加工品製造販売による循環型農業の確立をめざしている会社である。

当プラントは有機性廃棄物(一般食品廃棄物、事業系食品廃棄物)の受入処理、有機肥料の製造、エネルギー供給(電気、温熱)の3事業をこの施設のみで行なっており、それぞれの事業収益が期待できるシステムである。

また、本事業はゴミ処理費用抑制による財政削減、循環型農業による環境保全、地域での安定的な雇用創出にも貢献しており、同システムの波及効果が期待されている会社である。

当プラントは未経験者でも運営が可能であるシンプルなシステム設計で、施設運営ノウハウも確立されており新規参入しやすい環境にあるため、本町においても地域資源の活用による循環型農業の構築をめざし、特産のネギ、ニラ、アスパラ等の残渣を活用したシステムを検討していく必要性があると感じた。



バイオガスエネルギーによる南国果樹栽培

請願の内容を検討

総務振興常任委員会

- 1 日時 平成27年11月9日(月)
- 2 目的 経壇原水利組合管轄の農道に関する請願の審査
- 3 調査内容

右記の請願について、請願者および関係者から詳細について聞き取り調査を行いました。

- (1) 出席者
経壇原水利組合 沼澤組合長
舟形マッシュルーム 長澤社長
経壇原町内会 奥山町内会長
- (2) 調査意見
① 町道に編入された場合の道路幅、沿線の地権者との相談等は全く白紙の状態である。
② 水利組合としては、現行の道路でなら農作業等に影響はないと考えており、請願者の意思統一がなされていない。
③ 本件の請願については、水利組合の役員会には報告しているが、沿線の地権者とは白紙の状態である。
④ 住宅、車庫等の移転を考えた場合、拡幅工事は困難と思える。
- (3) 審査結果
今後、再度関係者で意思統一をはかり、検討すべきである。
よって現段階では不採択とする。

奥山町長勇退のあつらい

今期限りで勇退を表明している奥山町長が、定例会最後となる12月議会で「次期町長選に立候補を表明している方には、町60年の歴史と重みを教訓として尽力してほしい」とあいさつがありました。

8年間町政に尽くしていただき、ありがとうございました。



8年間ご苦労様でした。

請願・陳情

12月定例会で審査した請願は次のとおりです。

●経壇原水利組合管轄の農道に関する請願

- 請願者 経壇原水利組合
- 不採択
- 組合長 沼澤 清明
- 代表取締役 長澤 光芳

●TPP交渉「大筋合意」は撤回し、調印・批准しないことを求める陳情

- 陳情者 農民運動山形県連合会
- 採択
- 会長 花鳥賊 義廣

文化財保護および 活用施設を視察

文教民生常任委員会

- 1 日時 平成27年11月5日(木)
- 2 場所 新潟県十日町市博物館
- 3 調査内容

笹山遺跡は5000年前の縄文中期から後期の遺跡で、昭和55年から発掘調査されて出土した土器や石器(928点)が、一括で平成11年6月7日に国宝に指定されました。これら国宝笹山遺跡出土深鉢形土器(火焰型土器)の管理、地域に果たしている役割について調査を行いました。



施設の充実に感心

4 所感

本町での「縄文の女神」常設展示施設としての県立博物館分館誘致活動の検討については、本町のみならず、交流人口の増加地域の情報発信、活性化を目的とし、最上地域における文化財保護及び活用の拠点とするため、最上地域全体のテーマとして考えていくべきではないかと感じました。

(1) 博物館の概要・運営について

昭和54年に開館し、世界有数の豪雪地である十日町地域に暮らす人々の生活を支えてきた信濃川、産業、織物をテーマに、重要有形民俗文化財である越後縮の紡織用具・資料(2098点)、十日町市の積雪用具(3868点)と国宝の土器等が展示されています。

(2) 2020年東京オリンピックについて

全国の縄文時代の国宝6件の中で、土器として唯一国宝に指定されたものとなっており、火焰型土器を東京オリンピックの聖火台モチーフに採択されるよう、県・十日町市全体の運動として展開していました。



シリーズ

舟形町に嫁いで来た、お嫁さんをご紹介します。

えが ったなあ



□どんなきっかけで彼(ご主人)と知り合いましたか？

同じ会社に勤務していました。

□舟形町に嫁いで来て、どんなイメージを持ちましたか？

美味しい野菜や大好きな鮎にも恵まれ、何よりも町内の方々がみんな優しい人ばかりで、うれしく感じています。

□舟形町での生活はどうですか？

舟形町に嫁いで1年になりますが、たくさんの方々に優しくしていただき、明るい家族と一緒に、楽しく過ごしています。

□舟形町の良いところ・悪いところはありますか？

初めは雪の多さに驚きましたが、除雪の綺麗さに感動しました。

□舟形町に望むことはありますか？

嫁いでちょうど1年目の12月24日に女の子を出産しました。安心して子育てが出来る環境を広めていってほしいと思います。

舟形町に嫁いで来たお嫁さんです。

今回は、中山町から富田1に嫁いで来た斎藤美香(旧姓穂積)さんです。

皆さんよろしくをお願いします。

お願い

「えがったなあ」に出てみませんか。

対象者は町外から嫁いで来たお嫁さん・お婿さんです。

(連絡先)

舟形町役場議会事務局
TEL 0233-32-2111(代)

表紙のこぼれ

ことしの「おさいご」

は、福寿野公民館地内に地藏尊堂を新築しての初めての行事となりました。12月23日は積雪がない中の実施となり、「おさいご」のわらは、子供たちが各家庭から集めて高く積み上げました。

各家庭では、火を入れる前に古いお札やお守りをそれぞれ持ち寄ります。

「おさいご」は家内安全や無病息災を願うもので、この火で煙草を吸うと虫歯にならないとか、煙をからだにつけると病気になるいと言われています。

編集後記

新年あけましておめでとうございませう。

3年連続の大雪でしたが、今年の積雪は平年の2割ほどで、穏やかに新年を迎えることができました。

小寒が過ぎて寒の時季になっても雪が少なく、異常気象による災害・冷害が心配される声もありますが、寒に入って9日目の雨は「寒九の雨」と言われ、豊作の兆しとして喜ばれるとあります。皆様にとりましても素晴らしい年でありますように願っています。

2月には24年ぶりの町長選挙があります。奥山町長には、8年間、ありがとうございました。今年は「申年」です。よく見てしっかり聞いて、大切な一票にしたいいただき、自分たちの住む町をより良い町にするために、町民一人ひとりの思いを、意見要望として「申す年」にしていただきたいと思います。

(佐藤 勇記)

発行責任者

議長 八 鍬 太
議会広報常任委員会
委員長 斎藤 好彦
副委員長 奥山 謙三
委員 佐藤 勇春
委員 石山 文一
委員 小国 浩一
委員 伊藤 欽